

# 教務だより

2011年1月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## あと一步、の努力が合格を作る！

茗溪塾塾長 宇野雅春

2011年がスタートしました。中学受験は埼玉県がすでにスタートしています。ここから一ヵ月半の間に、高校受験、大学受験と矢継ぎ早に、受験が進行していきます。受験生それぞれの思いは多様だと思いますが、どの生徒にとっても重要な人生の分岐点です。

正月特訓の最中、唯一休みの元旦に、一昨年、塾の夏期合宿に参加してくれたドイツ人のS君が、母親と一緒に挨拶に来てくれました。合宿参加時は、「特訓勉強」にびっくりしていたS君ですが、今はちょうど大学入学のための準備の年。徴兵が海外ボランティアが義務付けられています。S君はボランティアを選びました。ドイツには、受験戦争がない代わりに徴兵制などがあります。S君のお母さんの話によると、やはりドイツでも、どうやって子供たちを鍛えていけるかということが最大課題ということでした。

先進国と言われた国々が、直面しているのは、次の世代を担う子供を、どう育てていくのかという事です。これは最近特に感じることで、日本の子供たちは、幼少から成人するまでは、世界のどの国よりも恵まれていることに思い当たります。そしてどこの国よりも弱い子供たちが見えてきます。すでにこれは今の親の世代にも言えることで、この世界に冠たる生活条件は当たり前になっています。「就職難」とか「受験戦争」とか言っても、まだまだ世界に目をやれば、甘い現実のような気がします。

今、日本の子供たちは受験でさえ、様々な配慮がなされています。推薦だとかAOだとか、制度だけは先進諸国の「いいとこどり」をしています。「徴兵制」なんて日本人にとっては禁句ですし、第2次世界大戦で辛酸をなめた日本人の平和感覚から見たらとんでもないことです。それでも自分達の思い描く「幸福」からははるかに遠い…と誰もが思っています。戦後、アメリカやヨーロッパに追いつけ追い越せで来ているうちに、いつの間にか先頭に来てしまったという気がします。そして、その矛盾がこれからの若い世代に覆いかぶさってきているようにも思えます。今必要なのは、多少の苦難でも乗り越える力です。

受験は、その要素を多分に持っています。自分がいろいろなことを我慢して、学習を軌道に乗せていくことが要求されます。我儘や弱気、怠けたい心や、ねたむ気持ちなどがすべて障害物として立ちはだかってきます。それとの戦いの場と言えるかもしれません。

あと、少しです！あれもやりたいこれもやりたいという欲求を抑えて、学習に専念しましょう。あれもやれるこれもやれるという状況を作ったのは、大人たちですが、次の社会を作るのは受験生の皆さんです。何かを成し遂げるには、必ず「努力」が必要です。受験における努力は、そのスタートにすぎません。

目標達成のために、あと一步進めること、自分が困難だと思ってしまうその一点に一步突っ込むこと、短時間でそれが可能な時期に来ています。

まだまだ自分を伸ばすことはできます。自分を伸ばしながら、受験していく姿勢が必要です。「分らなくてもこのくらいでいいか」が、不合格の原因になります。受験が、突きつける課題にひるむことは多いけれど、やり遂げて初めて、「充実感」は湧いてくるものです。今は辛いだけかもしれませんが、小さな喜びや充実も感じられるはずですよ。受験の正念場です。先生方も、受験を通じて今一步の飛躍を迫られます。受験生の頑張りが、先生たちをも支えるはずですよ。